

受験体験記～伊藤先生の場合～

文責 教務主任 伊藤 友文

3学期を迎え、本格的に入試が始まっています。3年生の中には不安や緊張が続く日々を送っている人が多いと思いますが、人生の節目の機会として捉え、意味のある受験としてほしいと願っています。

受験だけでなく、人生にはいくつもの試験や試練があります。今回は私を例にして紹介してみます。みなさんが抱えている不安や悩みを和らげる一助となれば幸いです。

1 高校入試

私の出身は東京都の江戸川区という街で、特に私の住んでいた松江という地域は町工場を営む家庭が多くありました。そのため、学年の4～5割の同級生は工業科や商業科といった専門学科に進学します。私も高校を出て働こうと考えていたため、当時工業系の都立高校を志望しました。夏以降は部活も引退し、時間が出来た分、友達とよく遊んでいました。お互いの将来のことや未来の社会について語り合っていたことを覚えています。今思えば、その語り合いの中で“私”という人間の骨組みが作られたように感じます。学習については学校や塾で出された課題や宿題を丁寧にやることを常に心がけていました。出来るものを出来る分だけ行い、余裕をもって日々の生活を送っていました。

2 大学入試

高校2年生の冬に始めて学校の先生になろうと決意しました。高校を卒業したら働こうと考えていた私は、そこではじめて“大学”という存在を知ります。教員免許は大学に進学しないと取得できないのです。私の父（昭和19年生）は集団就職で上京したため、中卒でした。その息子が「大学に行って教員になりたい」と言い出したことに大変驚き、緊急家族会議が開かれました。はじめは反対していた父でしたが、母の後押しもあり、受験を認めてくれました。家庭の経済状況も踏まえ、国立大学の進学を目指して猛勉強しました。今、思えば人生で一番勉強したときです。近くの公民館に開館から閉館までこもって勉強した時期もありました。楽しいことを一切封印して勉強に集中していましたが、結果ふらず国立大学は合格せず、私が進学したのは国立大学と同じくらい学費の安い私立大学の夜間学部でした。

残念な結果でしたが、目一杯頑張り切った達成感もあり、不思議と結果を前向きに受け止められました。だからこそ、大学4年間も充実した時間となりました。

3 教員採用試験

教員採用試験は2回受けました。大学4年生で受けた試験は1次試験（筆記）は合格したものの、2次試験（面接）で不合格でした。その後、ある中学校で講師をする機会をいただきました。授業だけでなく部活動や行事にも携わらせていただき、教師の大変さを痛感しました。その講師の経験を踏まえて臨んだ2回目の受験で合格をすることができました。今思えば、大学4年生で受けたときは何も経験したことがないことをいいことに、過信で言うことが嘘っぽかったように感じます。1年間でしたが、教師の卵として、たくさんの人からたくさんのことを教わりました。

人生は筋書きのないドラマです。平々凡々と過ごしながらも、節目と言えるイベントや出来事が必ず起きます。そのときに何を思い、自分がどんな行動をとるかで人生の豊かさが変わってきます。受験期のこの時期、余裕をなくして自分本位になりがちです。あなたを思う周囲の人の温かさを忘れないように、みんなで乗り越えていきましょう。応援しています！